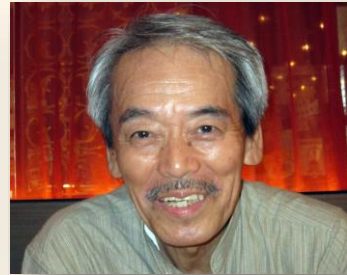


CNCPの持続的発展に向けて

CNCP 法人正会員・温故創新の会 事務局長 大野 博久

私は、法人会員の窓口役を担っている。「シビルNPO連携プラットフォーム（CNCP）」が平成26年8月にNPO法人認証を取得し、本格的活動を開始した途端、自分のあり方が何故か判りにくくなった。前身の「建設系NPO連絡協議会」では、顧客サイドに重心を置いて第三者的なスタンスを取っていたが、今はそれでいいのかと疑問を感じ始めた。



7月29日現在で法人の正会員数は18とのこと、前身の「建設系NPO連絡協議会」の35が半減した。これには正直なところ驚いた。法人会員はCNCP活動の中核に位置する。概略収支想定ではNPO法人の会員として50法人を見込んでいるので、大きなかい離がある。そんな状況にもかかわらず、CNCP通信は毎月きちっと発行されている。これは関係者の奉仕的努力のお陰であろう。ここでは、これまでに送って頂いたCNCP通信を一通り読んで、感じたままを記してみる。

私は企業人生の後半には、経営企画部門に属していた。そのため、「ミッション」とか「ビジョン」という活字を目にするにつれ関心が向く。花村副代表理事がCNCP通信の第2号で「事業を成功させるにはしっかりしたビジョンとスタンスを持つプラットフォームが重要である」と書かれている。ふっとCNCPのビジョンそしてミッションはどんな内容であったかを知りたくなった。ミッションが見つかった。山本代表理事が、CNCPのパンフレットにまとめておられる。だがそれは、定款第3条の「目的」を流用したもので、やや長文のため、会員が共感して行動する原動力にはなりにくい。

また、有岡常務理事は、7年の努力が実りNPO法人CNCPが正式に設立されたその時、第4号でカリフォルニア市の非営利団体SFMadeの成功事例を取り上げ、「奮起していこう」と自他を鼓舞されている。このフレーズには、胸が締め付けられた。さらに8月1日の設立記念シンポジウムで、辻田常務理事がシビルNPOの現況と課題を詳細に整理され、試行事業での人的な問題解決に大半の時間を割かれたとレジュメに記述している。

私の独善的な見方かもしれないが、活動資源が突然半減したのでは、それまで努力を積み重ねてきた人々に「虚無感」や「疲労感」が襲っても不思議ではない。7年の歳月の長さは、ただでさえ気力や体力を奪い、特定の人々に負担を集中し易い。仮にそうであるならば、定期的に人材の新陳代謝を図る仕組みを築く必要がある。経営が安定し、専属職員が置かれるまでは、法人会員に協力を仰がざるを得ない。法人会員およびそこに属する人たちの位置づけを示し納得を得られれば、当事者意識や参画意識が高まるかもしれない。

CNCPをイメージさせ、誰にもわかり易い共感を呼ぶ何かがいずれにしても必要である。それがNPO活動の原動力である「ミッション」および人に関する「ビジョン」であれば、持続的発展の精神的基盤を充実させることになる。8月のシンポジウムに参加された（特活）日本NPOセンター早瀬代表理事のレジュメは中身が濃く、極めて示唆に富んだ有益な内容となっているので、参考にさせて貰って考えるというのはどうだろうか。